



「ワザあり」な若手を育成しています!

宮崎高等技術専門校  
☎52-5583 FAX53-4950

宮崎高等技術専門校は、県内の若手技能者に技能を伝承し、産業の活性化に貢献することを目的に、昭和25年に設立されました。加盟する企業で仕事をしながら、2~3年間にわたって技能を学ぶ普通課程では、木造建築、建築塗装、左官・タイル施工という科目に約15人(平成28年4月時点)が在籍。経験豊富な講師陣が実技や座学で指導にあたっています。

「最近の学生は、技能士の国家資格を取得したいと明確な目標を掲げて入学してくる意欲的な人材ばかり。技能五輪でも受賞者が出るなど、頼もしい限りです」と副校長の北川治さんも笑みを浮かべます。専門校では技能士資格のさらなる浸透や、企業側でのよりよい労働環境作りなどにも努めていく予定です。



左官・タイル施工科



とび

Rui Furukawa

モノを作る前の最初の仕事  
それを手掛けられるのが幸せ

古川 留偉さん (21歳)  
有限会社吉村工業勤務。第53回技能五輪全国大会とび部門で敢闘賞を受賞。

今年で入社4年目。中学校のころから高い所で仕事をする様子がかっこいいなと思っていて、迷いなく志望しました。普段は足場や仮囲いなどを組み上げる仕事をしています。

技能五輪では、制限時間内(4時間45分)に一人で大きな足場を組み上げ、その精度を競うという課題が出され、2か月前に課題が公開されてからは、毎日仕事が終わった後に練習を重ねました。本番では緊張してしまい、練習の成果を十分に発揮できませんでしたが、モノを作る前の最初の仕事ができるこの職業に喜びを感じています。今後は1級とび技能士資格の取得にチャレンジしながら、先輩からもっと技術を盗んで成長したいと思います。

【指導者】  
清水 亮行さん

10~20代の担い手が不足している中、彼は貴重な存在。当然ながら課題はたくさんありますが、礼儀正しいし、吸収も早い。彼が働きやすい環境を作ることが、私たちの役割だと感じています。



家具

Kousei Tsuchimochi

寸法通りに美しく仕上げる  
一流の職人を目指したい

土持 弘聖さん (21歳)  
有限会社ファーニチャー横山勤務。第53回技能五輪全国大会家具部門で敢闘賞を受賞。

小さい頃から家業を見ていて、ものづくりへの憧れを抱いていました。自分の技に手応えを得たのは専門学校で、木材をどこまで薄く削れるかを競う機会があり、1000分の6ミリという記録が出せた時でした。同じ業界を志す仲間と出会うことができ、在学中に出場した技能五輪では家具職人でも技能を競える機会があることも知れたので、よかったです。

技能五輪には次も挑戦したいですし、その上に熟練技能士が日本一を競い合う技能グランプリという大会もあるので、1級家具製作技能士資格を取得して、そこにも挑戦したいです。寸法通りに家具や建具を仕上げられる一流の職人を目指して精進していきます。

【指導者】  
土持 武美さん

技能五輪は若手が技能を磨ける貴重な舞台。彼のような受賞経験のある職人がもっと評価されるよう、技能五輪のことをもっと周知していくのも私たちの役目だと感じています。



左官

Tatsuyuki Ono

仕事ぶりに説得力を持ち  
後輩が付いてくる人材に

小野 龍幸さん (20歳)  
有限会社岩佐工業勤務。第53回技能五輪全国大会左官部門で銅賞を受賞。

母と社長が知人だったことや、体を動かすのが好きだということもあって、この仕事を始めました。普段は建築中の建物の壁などに、こてを使ってモルタルなどを塗り仕上げています。技能五輪は会社の先輩が代々参加し続けていて、見学に連れて行ってもらったことがあり、その時に自分でもやってみたく感じました。仕事終わりの練習のほか、会社には仕事と並行して宮崎高等技術専門校にも通わせてもらい、とても感謝しています。

次の技能五輪にもぜひ出場して金賞を取りたいですし、誰よりも上手になりたいです。そして、後輩に対して説得力があり、みんながついて来てくれるような人材になりたいと思います。

【指導者】  
岩佐 富士夫さん

左官は、その上に入る塗装などの基礎を作るのが役目。それだけに仕事は絶対にきっちりなくてはなりません。彼はそれを普段の生活でも心掛けているところが素晴らしいです。



## 知ってほしい、宮崎の人材育成

宮崎でもあなたの輝ける場所が見つかる

自分の仕事に誇りを持ち、技能の向上に向けて日々努力している宮崎市の若者たちが、全国の舞台上で輝かしい成績を収めています。そして、その若者を育てているのは、企業の理解や努力、訓練校などの技術を学ぶ場です。

ものづくりは暮らしの根本にある大切な仕事であり、機械化が進む中、ますますその重要性が増しています。一方で、宮崎市では若者の早期離職や県外流出に歯止めがかからず、この大切な技能の維持・継承が危惧されています。

そのような中で、宮崎にはものづくりの技能は嘘をつかないで、技能の修練に励む若者がいること、また、その若者を全力で支える企業があることを、ぜひ皆さんに知っていただきたいです。

あなたも輝く技能者を  
目指しませんか。



商業労政課  
主任主事  
時任 亜里沙

## DATAで見る若者就職事情

若者の多くが県外に出て離職率も高い

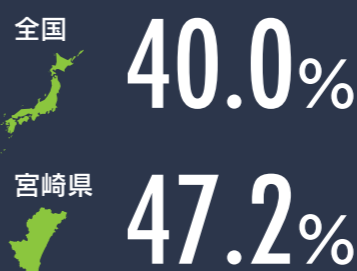
宮崎の将来を担う若者の多くが、大学や高校卒業と同時に県外に出ているほか、3年以内に離職する割合も全国平均に比べて高いことがわかっていきます。県外への転出や離職の理由はさまざまですが、少子高齢化の加速に伴い、さらなる労働不足が懸念される中、企業や教育機関などが一体となって、宮崎で働く意義や地元企業の魅力などを積極的に発信していくことが求められます。

新規高卒者の県内就職率  
(平成27年3月卒)



【資料出所】平成27年度学校基本調査

新規高卒者の卒業後  
3年以内の離職率(平成24年3月卒)



【資料出所】厚生労働省(宮崎労働局)